

楽座クーラー 取扱説明書

CLECOOL V2
CLECOOL V3



この度は本機をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

- この取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- お読みになった後はいつでもご覧になれるようお手元に保管してください。
- 保証書はお買い上げ日、販売店名などの記入をお確かめの上、大切に保管してください。

目 次

安全上のご注意	2
各部の名前と働き	5
室外機の設置について	6
窓用パネルの使い方	7
手動排水ホースの準備について(V2持ち運びタイプのみ)	8
各部の名前と働き	9
運転前の準備	11
運転モード設定のしかた	12
冷房運転	12
除湿運転	12
自動運転	12
送風運転	12
リモコン	13
リモコンの使い方	13
リモコンの電池交換のしかた	13
室内機と室外機の分離のしかた(V3分離可能タイプのみ)	14
室内機と室外機の接続のしかた(V3分離可能タイプのみ)	15
本機の移動時や収納時の注意点と排水について	16
お手入れのしかた	17
日常のお手入れ	17
長期間使わないとき	17
ご理解していただきたいこと	18
冷媒ガスの充填のしかた	19
故障かな？と思った時は	20
エラー表示	21
仕様	21
保証書	21

安全上のご注意

- お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、本機を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
- ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 警告 (WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意 (CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

 注意 (CAUTION)	本機の標準使用期間はお買い求めの日から1年間です。 標準使用期間を超えて使用されますと、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。
--	---

- お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されている内容です。		この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。
---	-----------------------	--	--------------------------

 警告 (WARNING)			
●改造は絶対にしない。また修理技術者以外の人、絶対に分解したり、修理・改造を行わない。 火災や感電やけがの原因になりますので、お買い求めの販売店にご相談ください。お客様自身で改造・分解は絶対にしないでください。		●電源コードや電源プラグを破損することはしない。 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、重いものを載せたりしない。また、ふすまやドアに挟まない。使用中は、結束バンドや針金などで束ねたりしない。 傷んだまま使用すると、火災や感電やショートの原因になります。	
●本機を移動する時やお手入れをする際は、電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電の原因になります。		●日本国内専用です。電源は交流100V以外で使用しない。 100V以外の電源を使うと、電気部品が加熱したり、火災や感電の原因になります。	
●電源プラグやスイッチを濡れた手で抜き差ししたり触れない。 感電の原因になります。		●電源プラグは、ほこりが付着していないか確認し、ガタつきのないように根元まで確実に差し込む。 ホコリが付着したり、接続が不完全な場合は火災や感電の原因になります。電源プラグにたまったホコリなどは定期的(1ヶ月に1~2回)に掃除をしてください。	
●電源コードや電源プラグが傷んだりコンセントの差込みがゆるいときは使用しない。 電源コードや電源プラグが異常に発熱し、溶けたり変形して、感電やショートや発火の原因になります。また、コンセントの差込みがゆるいと感じた時は工事業者に依頼してコンセントを取り替えてください。		●アースを必ず設置して使用する。 アースを設置しないと、感電の原因になります。	

安全上のご注意

⚠ 警告 (WARNING)

- 異常時(焦げくさい等)は、運転を停止して電源プラグをコンセントから抜き、お買い求めの販売店にご相談ください。



異常のまま運転を続けると、火災や感電や故障の原因になります。

- 水漏れしたときはお買い求めの販売店に修理を依頼してください。

絶縁不良により感電・火災の原因になります。



- 修理はお買い求めの販売店にご相談ください。



ご自分で修理をされたときに不備があると、火災や感電の原因になります。

⚠ 注意 (CAUTION)

- 屋内の壁コンセントで2口以上になっても単独で使用する。交流100V 15A以上のコンセントを確認する。他の電気機器の電源プラグは同コンセントに差込まない。また延長コードの使用や他の電気機器とのタコ足配線をしない。



屋内配線(壁の中の配線)の電気容量が許容量を超え、火災や感電や電源プラグの異常発熱や変形の原因になります。

- 障害物(カーテン等)の周囲や不安定な場所で使用しない。

事故や転倒や故障や水漏れの原因になります。



- 吹出口や排気口にピンや針などの金属物等、また指を入れない。



内部でファンが高速回転しておりますので、けがの原因になるおそれがあります。

- 可燃性のものや火の付いたたばこ・線香などを吸込口に近付けない。

発火の原因になります。



- 可燃性ガス(殺虫剤など)を吹き付けない。また可燃性ガスが発生する場所やたまる場所では使用しない。



万が一ガスが漏れて本機の周囲に溜まると、火災や故障や変色の原因になります。

- ガスレンジや石油ストーブの近くで使用しない。

ひび割れ、火災の原因になります。



- 長期間使わない時、必ず電源プラグをコンセントから抜く。



絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

- 水のかかりやすい場所や、風呂場などで使わない。



火災や感電・漏電の原因になります。

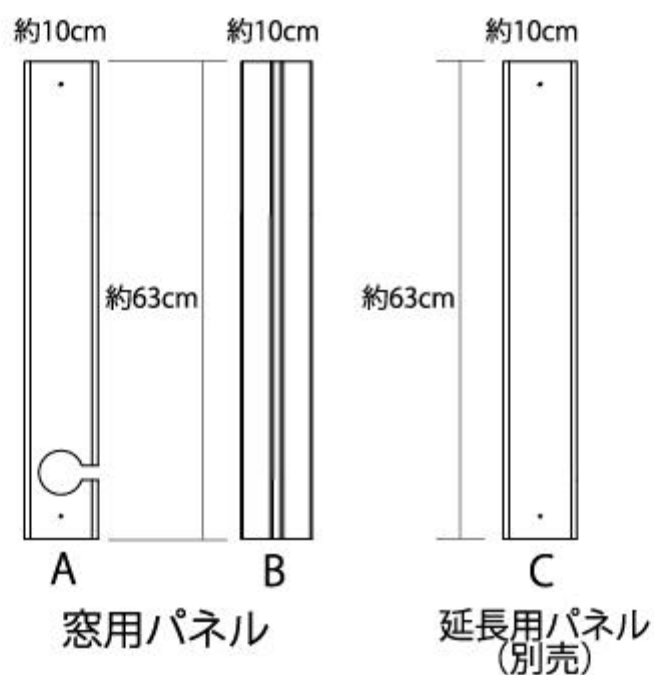
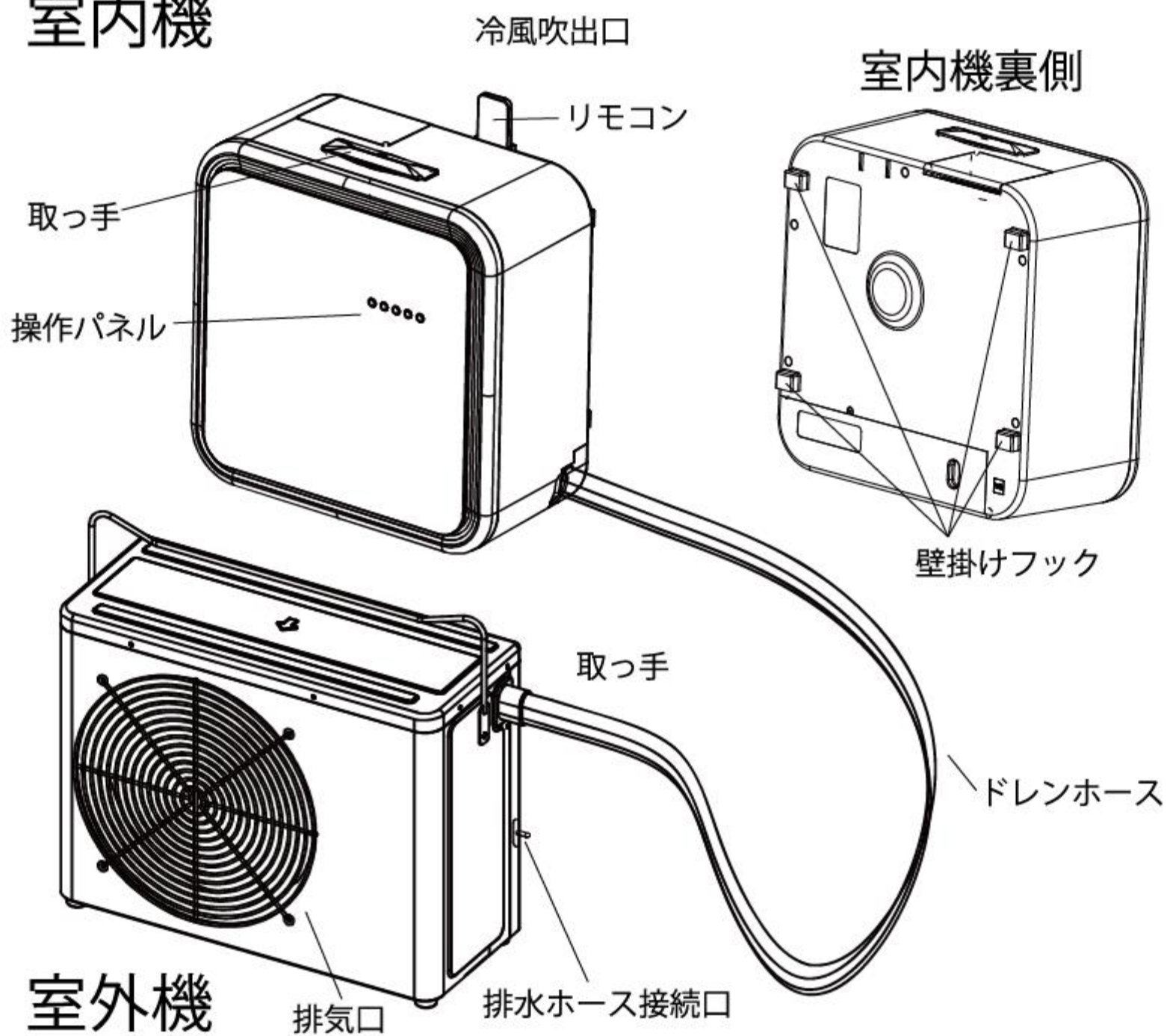
安全上のご注意

注意(CAUTION)

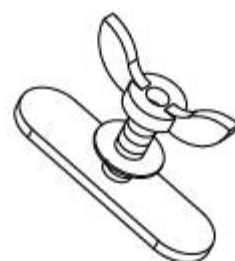
● 電源プラグやコードは途中で接触したり、延長コードの使用し他の電気器具とのタコ足配線をしない。 感電や発熱・火災の原因になります。 	● 濡れた手で抜き差ししない。 感電の原因になります。 
● 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜く。 電源コードを引っ張って抜くと、コードが断線して発熱・発火の原因になります。 	● 本体を水洗いしない。 感電・火災の原因になります。 
● 電源コードを製品の下に踏んで使用しない。 電源コードが破損する原因になります。傷んだまま使用すると火災や感電の原因になります。 	● 排水ホースは折れ曲がりなどに注意し、確実に排水するよう配管する。 
● 破損した電源プラグやコードを使用しない。 火災やショート・感電の原因になります。 	● 排水ホースの周囲が氷点下にならないようにする。 内部の水が室内にこぼれて家財などを濡らしたり、感電・漏電・火災の原因になります。 
● 長期使用の場合、定期的にエアフィルターの掃除をする。 過熱・漏水の原因になります。 	● お子様の手の届かない所に保管し、お子様は、ご使用にならないでください。 

各部の名前と働き

室内機



通行口ゴム

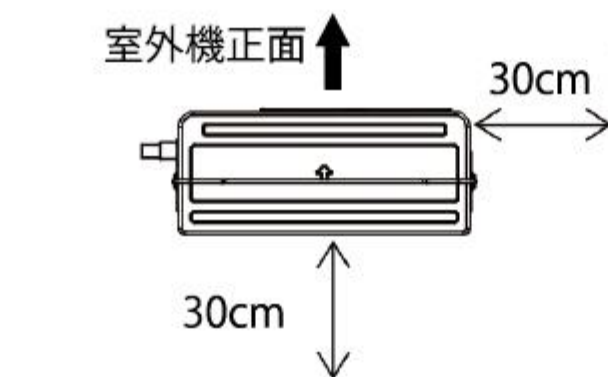


パネル固定ネジ

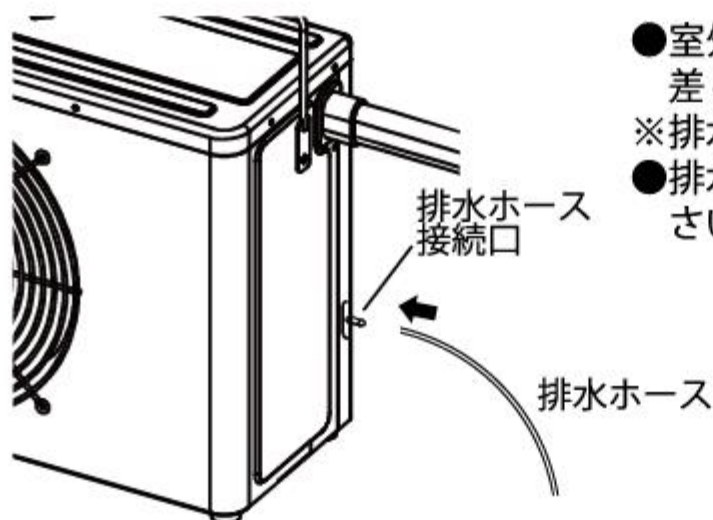
室外機の設置について

1. 室外機を設置する

- 室外機正面に壁など障害物になるような物を置かないようにして、室外機の側面や裏面は壁から30cm以上空間を開けて設置してください。
- ※ 室外機を横向きにしたり、裏返しにしないでください。振動や異音・故障の原因となります。



2. 排水ホースを接続する



- 室外機側面の排水ホース接続口に排水ホースを差し込みます。
- ※ 排水ホースは奥までしっかり差し込んでください。
- 排水ホースの先を水の流したい方向へ向けてください。

※排水について

冷房や除湿を行うと、水が発生します。
本機は発生した水を一旦室内機内部のタンクに貯めます。
タンクに一定量水が貯まるか、電源をOFFにした際に室外機から排水を行います。
排水動作は約2分半後に自動的に止まります。
排水を行っている間はコンセントを抜かないでください。

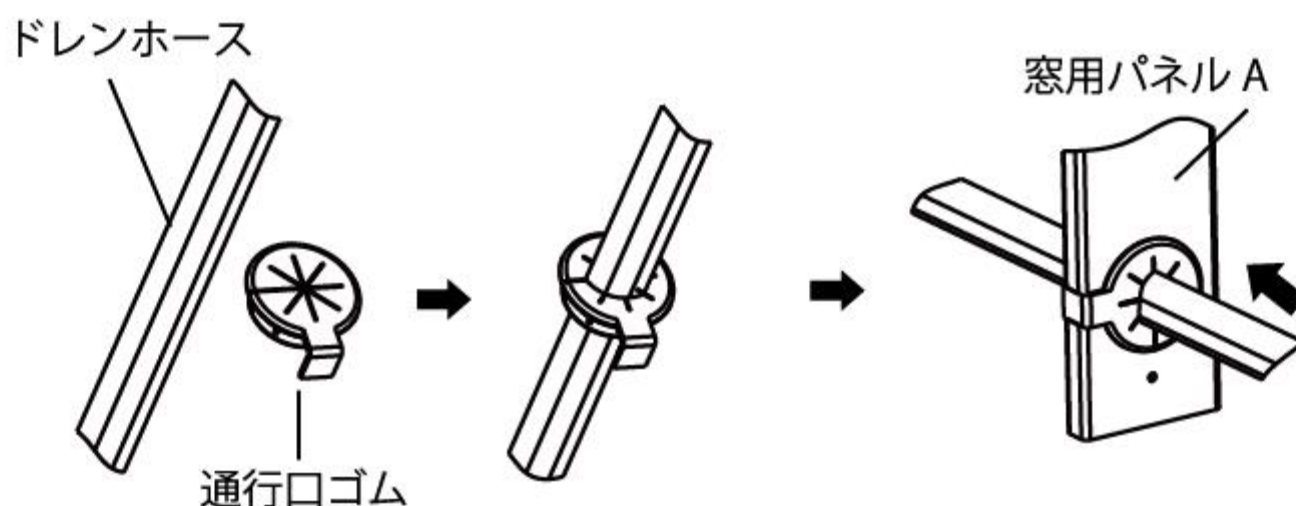
※注意事項

- 転倒しやすい場所や傾いている場所には設置しないでください。
- 可燃性ガスのある場所からは避けてください。
- 排水ホースの先が水たまりにならないようにしてください。
水たまりに浸かっている状態だと排水できず詰まる事があります。
- 室外機は横向きにしたり、裏返しにしないでください。

窓用パネルの使い方

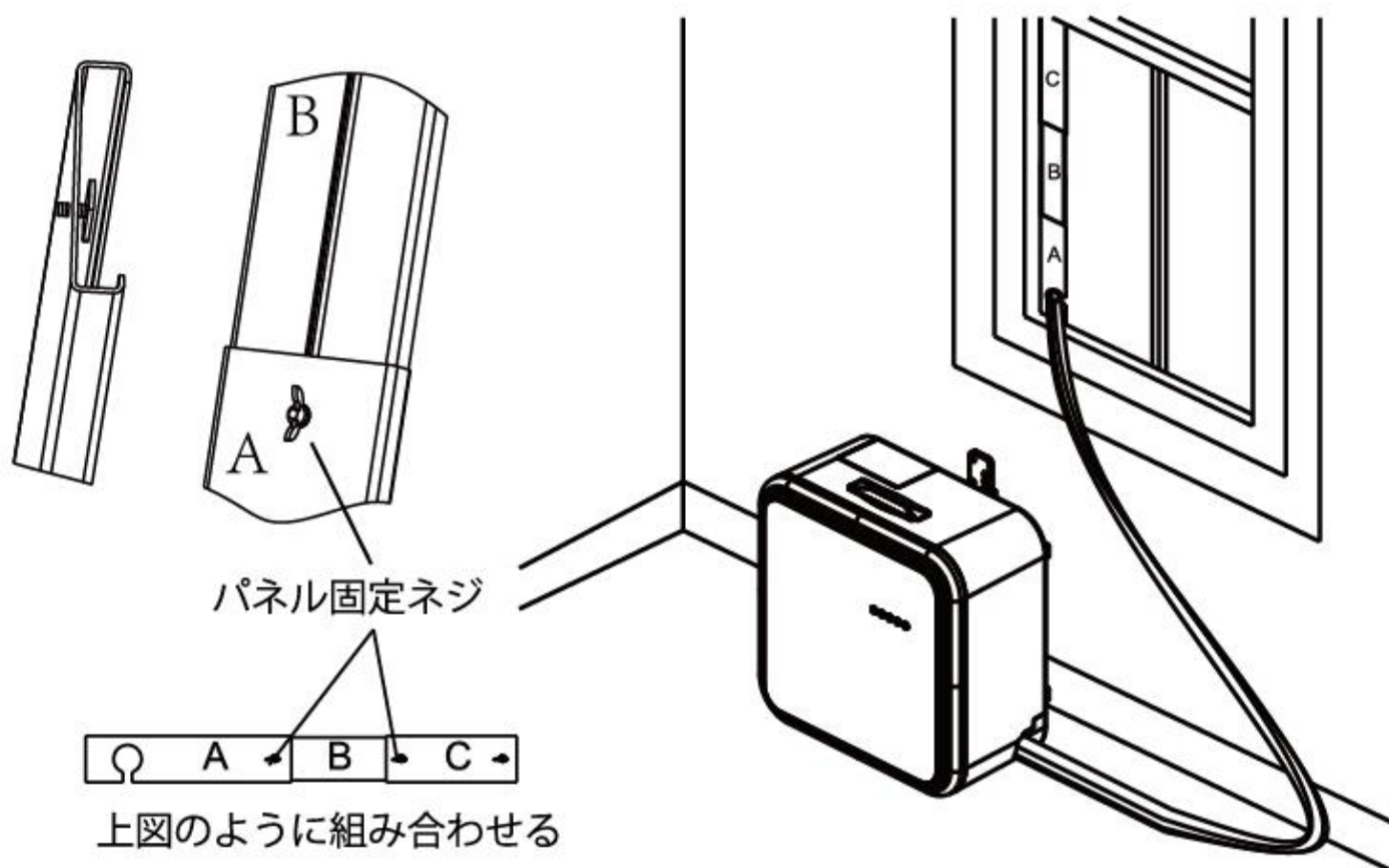
窓用パネルはドレンホースを窓等の隙間に通す際に使用します。

1. 窓用パネルにドレンホースをはめる



2. 窓用パネルを連結し、必要な長さに調節する

●窓用パネルを組合せ、パネル固定ネジで固定します。



3. 連結した窓用パネルを窓に挟み込む

●パネルが外れないようにしっかり挟み込むか、パネル脇にある穴を利用し、ネジ等で壁に固定してください。

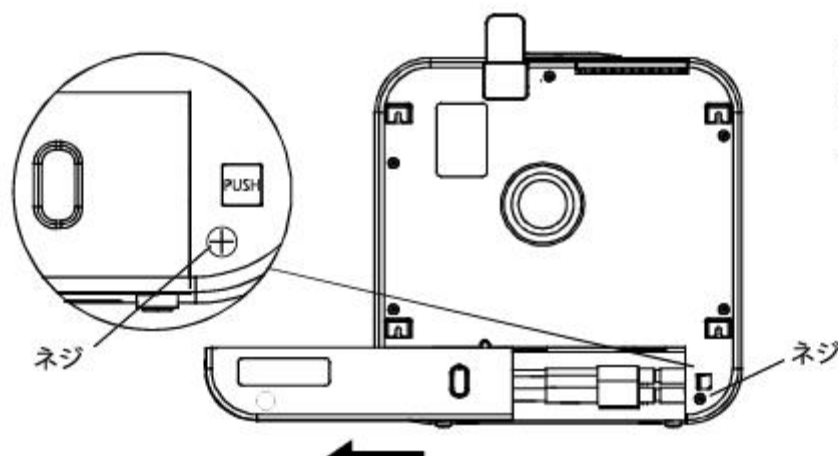
手動排水ホースの準備について(V2持ち運びタイプのみ)

室内機の背面から手動で排水することができます。(V2持ち運びタイプのみ)

初期状態では、手動排水を行うホースは室内機内部に格納されています。

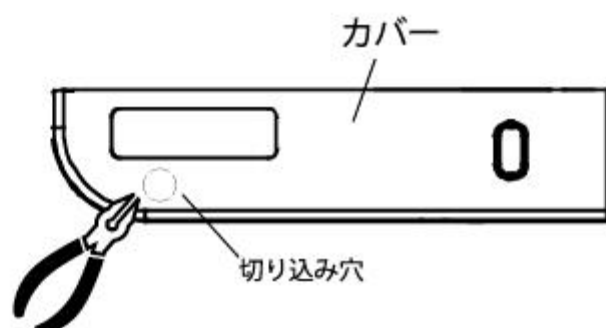
手動排水を使用する場合は、以下の手順で手動排水ホースを外面に出してください。

1. 室内機の背面カバーを外す



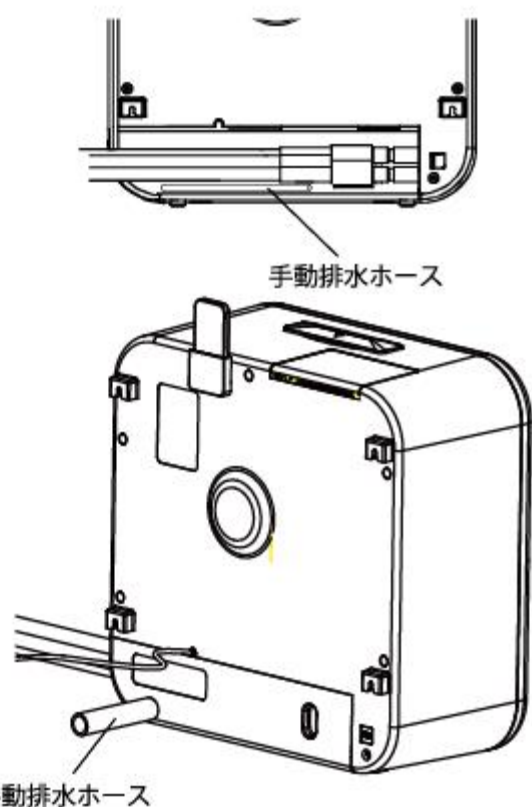
- 背面カバーのネジを＋ドライバーで外します。
- 「PUSH」と書かれた部分を押し込みながら左へスライドしてカバーを外します。

2. カバーの穴を開ける



- カバーの左側に穴を開けられる切り込みが入っていますので、こちらを開けます。
- ※穴を開けるときは、指等にケガをしないよう、十分お気を付けください。
- ※開けにくい場合は、ニッパー等を使用してください。

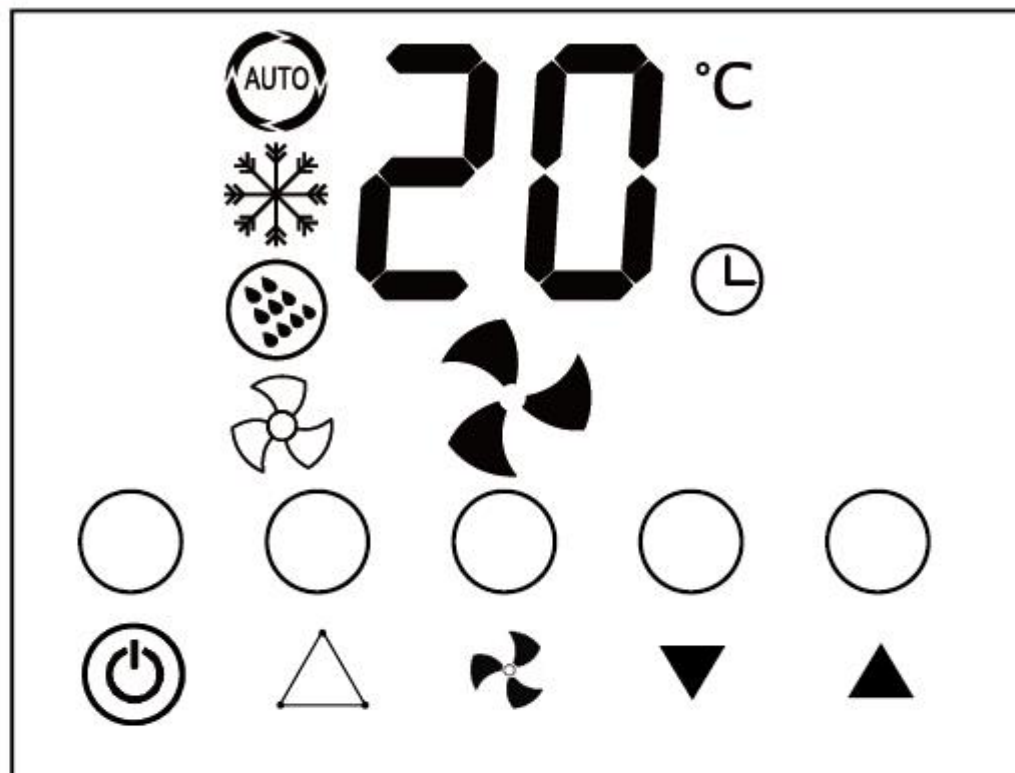
3. ホースをカバーの穴に通す



- カバーを外した部分から手動排水ホースを引き出します。
- 開けたカバーの穴にホースを通し、カバーを元に戻します。
- ※手動排水ホースには予めゴム栓がされています。
- このゴム栓を外すと、常時水が排水されるようになります。
- 排水したい時だけゴム栓を外し、排水が終わったらゴム栓を元に戻してください。

各部の名前と働き

操作パネル



液晶ディスプレイの表示説明一覧

	自動モード	88	温度/タイマー/エラー表示
	冷房モード		タイマー動作表示
	除湿モード		風量表示
	送風モード		

	ON/OFFボタン	電源をON/OFFします。 ※電源OFFにした直後は排水動作を行います。 この間はコンセントを抜かないでください。
	モード切替ボタン	運転モードを切り替えます。 押すたびに 「自動」→「冷房」→「除湿」→「送風」の順に切り替わります。
	風量切替ボタン	風量を切り替えます。 「強風」→「中風」→「弱風」の順に切り替わります。
	調節ボタン	設定温度を変更します。 「自動」「冷房」選択時に温度を変更でき、 16℃～31℃の間で設定できます。

各部の名前と働き

風量

設定(本体操作パネル  風量切替ボタン、リモコン  自動  で設定)

自動風 ※「自動」モード 選択中のみ	運転モードを「自動」モードにした場合、現在の室温と設定温度の温度差により「強風」・「中風」・「弱風」から自動的に判断して動作します。 ※「自動」モード専用です。
強風	強風で運転します。
中風	中風で運転します。
弱風	弱風で運転します。

タイマー を使う

オフタイマー リモコン 

- 運転中にタイマーボタンを押し、オフタイマーの時間を設定します。
- 設定時間後に運転が停止します。
- 運転中にのみ設定できます。(停止中は設定できません。)
-   ボタンで時間を設定します。(最小タイマー1時間、最大タイマー24時間までです。)
- 取り消す場合はもう一度タイマーボタンを押してください。

オンタイマー リモコン 

- 製品の運転が停止中にタイマーボタンを押し、オンタイマーの時間を設定します。
- 設定時間後に冷房運転を再開します。
- 運転中では設定できません。
-   ボタンで時間を設定します。(最小タイマー1時間、最大タイマー24時間までです。)
- 時間の経過とともにランプが切り換わり、残り時間の目安を表示します。
- 取り消す場合はもう一度タイマーボタンを押してください。

運転前の準備

1. 製品を取り出します。

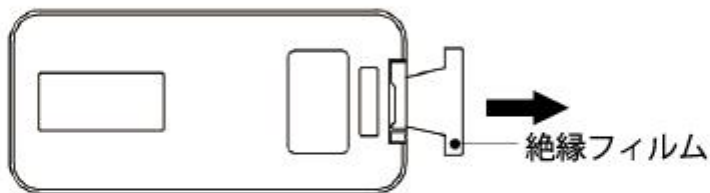
- 包装箱からすべての包装材を取り除き、製品を傷をつけないように取り出してください。同時に付属品や取扱説明書も取り出してください。
- 包装箱や包装材は保管するときにご利用ください。

2. 水平の確認をします。

- 製品は振動のない、水平で丈夫な床面に設置してください。
- 製品が傾いていないか、不安定な状態になっていないか、必ず確かめてください。
- 製品を傾いた状態で使用しますと、水が溢れ出たり、振動音が出たり、転倒しやすくなります。

3. リモコンの準備をします。

- リモコンの絶縁フィルムを抜き取ります。



4. 電源プラグを家庭用交流100V15A以上のコンセントに確実に差し込んでください。アースも必ず接続してください。

運転モードの設定のしかた

冷房運転



- リモコンまたは本体操作部の「運転」ボタンを押します。
- 「モード」ボタンを押して❄️（冷房運転）に合わせます。
- 「調節」ボタンを押して、お好みの温度に設定します。
(最高設定温度31℃、最低設定温度16℃までです。)
- 1回押すごとに1℃変化します。設定温度と実際に出ている冷風の温度は異なります。
- 部屋の温度よりも低い温度にセットしてください。部屋の温度よりも高い温度にセットした場合、送風運転になります。
- 運転停止後、再度冷風運転を再開した場合、設定温度は初期値温度の22℃になりますので、適切な温度に設定し直して下さい。
- リモコンまたは本体操作部の「風量」ボタンを押して風量を選びます。
- ボタンを押すたびに「強風」→「中風」→「弱風」と風量が切り替わります。

除湿運転



- リモコンまたは本体操作部の「運転」ボタンを押します。
 - 「モード」ボタンを押して🌀（除湿運転）に合わせます。
 - 「除湿」を選択すると、断続的に除湿動作を行います。
- ※同時に「冷房」動作も行っており、吹出口から冷風がでます。

自動運転



自動運転は、外気温と設定温度の差によって自動的に判断して冷房動作を行うモードです。
外気温が設定温度より高いと、「冷房」運転を行います。
外気温が設定温度の差が大きいと、風量を「強風」にして動作します。
外気温が設定温度の差が小さくなると、風量を「中風」にして動作します。
外気温が設定温度に到達すると、「送風」運転に切り替え室内の空気を循環させます。
外気温が設定温度より高くなると、自動的に「冷房」運転に戻ります。

- リモコンまたは本体操作部の「運転」ボタンを押します。
 - 「モード」ボタンを押して🌀（自動運転）に合わせます。
 - 「調節」ボタンを押して、お好みの温度に設定します。
(最高設定温度31℃、最低設定温度16℃の間で設定できます。)
 - 1回押すごとに1℃変化します。設定温度と実際に出ている冷風の温度は異なります。
- ※このモードは自動で風量を変更し、ご自身で風量の変更を行うことはできません。

送風運転

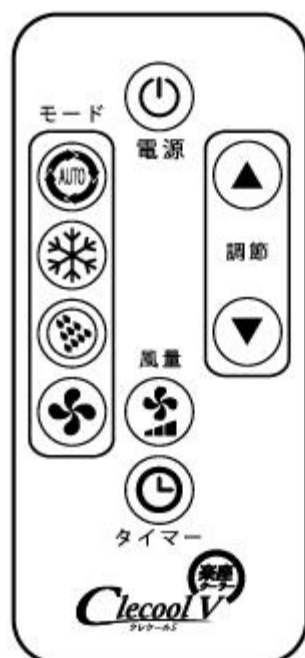


- リモコンまたは本体操作部の「運転」ボタンを押します。
- 「モード」ボタンを押して🌀（送風運転）に合わせます。

お好みの風量を選びます。

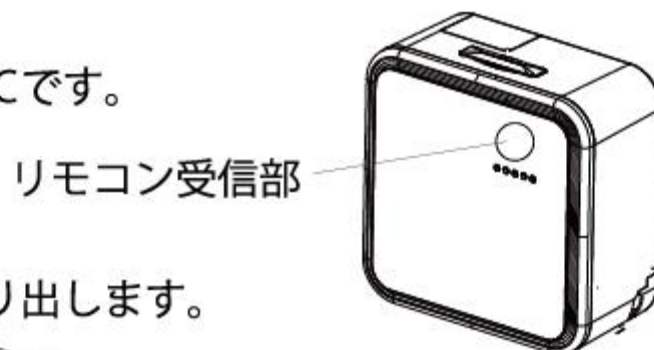
- リモコンまたは本体操作部の「風量」ボタンを押して風量を選びます。
- ボタンを押すたびに「強風」→「中風」→「弱風」と表示が変わります。

リモコンの使い方

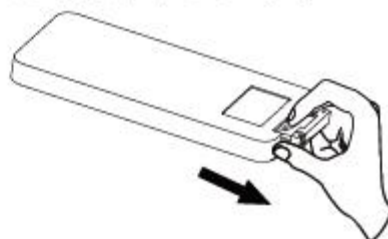


	ボタン	機能
	運転ボタン	運転 ON/OFF
	自動	自動運転で動作します。
	冷房	冷房運転で動作します。
	除湿	除湿運転で動作します。
	送風	送風運転で動作します。
	調節ボタン	温度、タイマーの設定をします。
	風量	風量を設定します。
	タイマー	オンタイマー/オフタイマーの設定

- リモコンを受信部に向けて操作します。
操作可能距離は最大約 5m、左右に約 45°です。

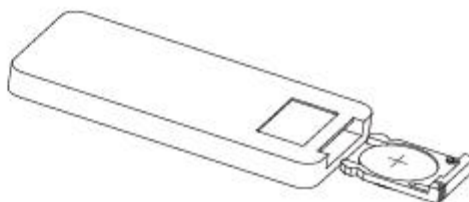


- リモコンの電池交換のしかた
1. リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出します。
① つめを内側におしながら、
② 手前に引き出します。



2. 使い終わった電池を取り出し、新しい電池を電池ホルダーに入れます。
⊕側がホルダーから見えるように入れてください。

3. 電池ホルダーを元に戻します。



お願い

- 交換用リチウム電池は、CR2025をお買い求めください。
- 電池の⊕ ⊖を間違えないように正しく入れてください。
- 電池ホルダーに無理な力を加えないでください。
- 長期間使わないときは、電池を取り出してください。
- 使用済みの電池はお住まいの地域の分別方法に従って、捨ててください。(捨てる際にはセロハンテープなどを巻き付けて絶縁してください)

室内機と室外機の分離のしかた(V3分離可能タイプのみ)

冷媒ガスの補充は専門知識が必要となりますので、エアコン整備等の専門の方にご依頼ください。
ジョイント分離・接続に伴う破損や故障は保証対象外となりますので、ご自身で作業はせず、
必ず専門の方にご依頼ください。

●分離を行う際は、電源を切り、排水動作が止まってから5分以上経過してから行なってください。

●分離作業はコンセントを抜いた状態で行なってください。

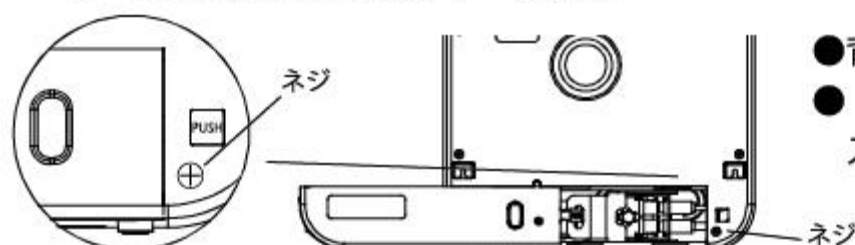
●室内機の内部にはタンクがあり、まだ水が残っている事があります。

室内機を傾けると残った水がこぼれる事がありますのでご注意ください。

※室内機と室外機の分離、接続を行うと、少量ですが充填した冷媒ガスが漏れる可能性があります。

この作業を行った後、著しく冷房能力が落ちた場合、冷媒ガスを補充してください。

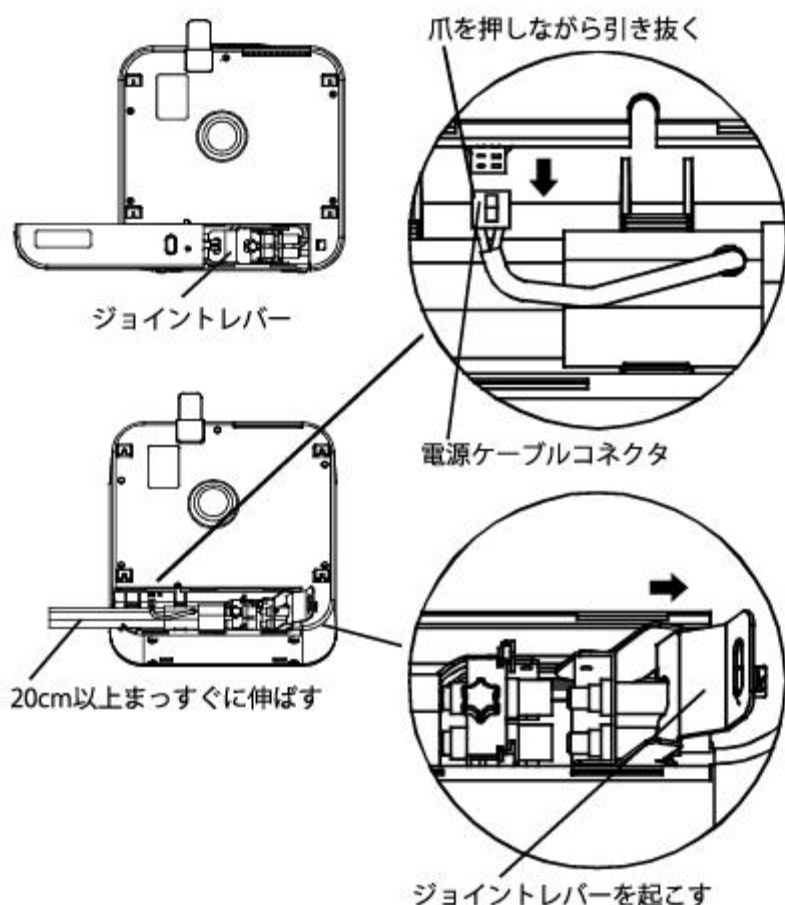
1. 室内機の背面カバーを外す



●背面カバーのネジを+ドライバーで外します。

●「PUSH」と書かれた部分を押し込みながら左へスライドしてカバーを外します。

2. 電源ケーブルとジョイントを外す



●ドレンホースをジョイント部分から20cm以上まっすぐに伸ばします。

●電源ケーブルコネクタをしっかりと持ち、取り外します。
コネクタの爪を押しながら引き抜きます。

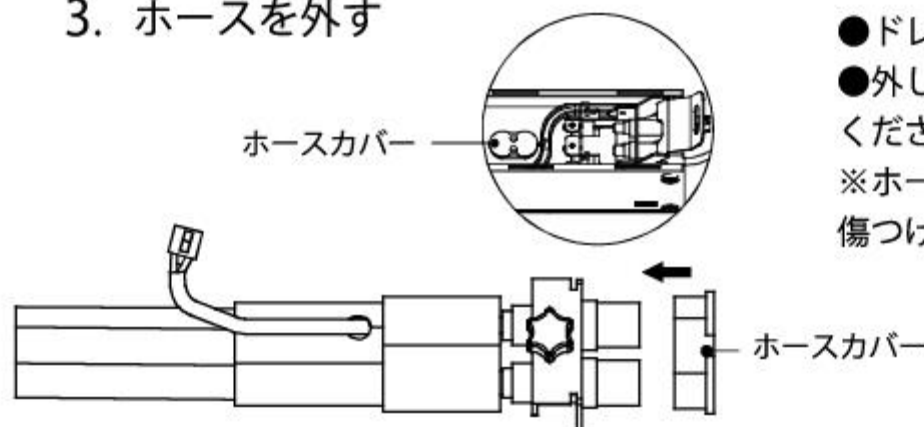
※ケーブル部分を引っ張るとケーブルが切れてしまう可能性があります。

●ジョイントレバーをしっかりと持ち、一気に右へ引き起こします。

※ジョイントレバーの操作は途中で止めないでください。
冷媒ガスが抜け出しやすくなります。

※ジョイントレバーの操作時、指等を挟まないようにお気をつけください。

3. ホースを外す



●ドレンホースを垂直に持ち上げ、取り出します。

●外したホースの先端に付属のホースカバーを付けてください。

※ホースの先端部分の傷つけない様にしてください。
傷つけてしまうと、冷媒ガス漏れの原因になります。

室内機と室外機の接続のしかた(V3分離可能タイプのみ)

冷媒ガスの補充は専門知識が必要となりますので、エアコン整備等の専門の方にご依頼ください。
ジョイント分離・接続に伴う破損や故障は保証対象外となりますので、ご自身で作業はせず、
必ず専門の方にご依頼ください。

●接続作業はコンセントを抜いた状態で行なってください。

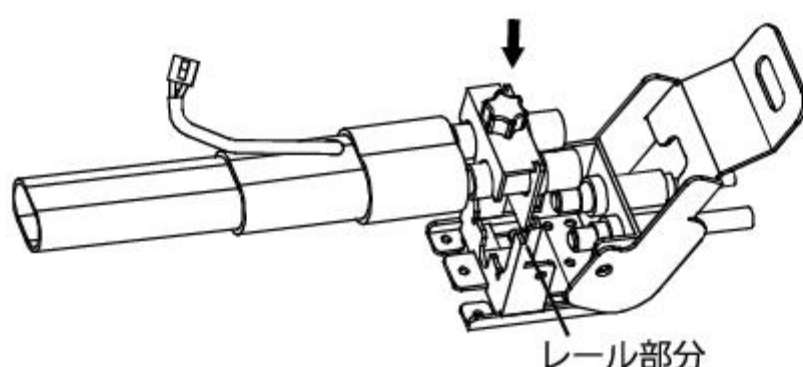
●室内機の内部にはタンクがあり、まだ水が残っている事があります。

室内機を傾けると残った水がこぼれる事がありますのでご注意ください。

1. ホースの先端カバーを外す

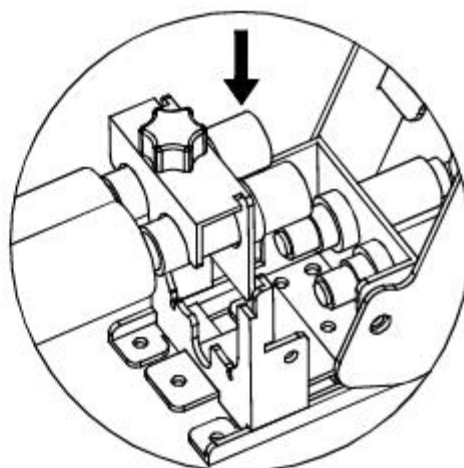
※カバーを外した後はホース先端部を傷つけない様にしてください。

2. ホースを差し込む

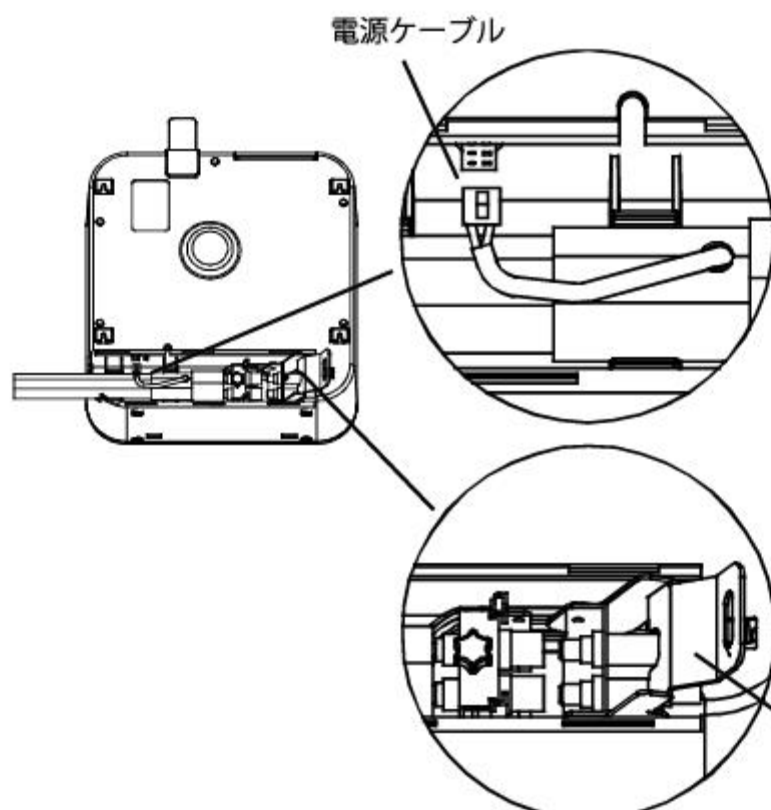


●ホースをレール部分に添って差し込んでください。

●ホースをしっかり押し込み、ずれがないか確認してください。



3. ジョイントレバーを倒し固定する・電源ケーブルを差し込む



●ジョイントレバーをしっかり持ち、一気に左へ倒します。

※ジョイントレバーの操作は途中で止めないでください。冷媒ガスが抜け出しやすくなります。

※ジョイントレバーの操作時、指等を挟まないようにお気をつけください。

●電源ケーブルコネクタを奥までしっかり差し込みます。

本機の移動時や収納時の注意点と排水について

本機は持ち運びが出来る構造上、排水の仕様については通常のクーラーとは異なります。本機を移動すると、本機内部に貯まった水がこぼれる可能性があります。こぼれた水が本機の故障に繋がってしまう危険性もあります。以下に本機の排水の仕様と注意点を記載していますので、本機を移動する際は、本機の仕様を十分ご理解の上、行ってください。

CLECOOL V 2 の場合 排水方法が2パターンあります。(手動・自動)	
排水手段	手動排水：可能 自動排水：室内機のタンクに水が一定量貯まった時 電源をOFFにした時
自動排水は上記を満たすと室外機から約2分半ほど自動で排水を行います。 ※V2の場合、手動排水に重点を置いた構造になっているため、自動排水が終わっても、室内機にはある程度の水が残っており、この状態で室内機を傾けると水がこぼれます。 また、自動排水時間中に水が出てこなくなった事を確認した場合でも、室内機には水が残っています。 室内機を動かす前に、必ず手動排水を行ってください。(本説明書-8ページ)	

CLECOOL V 3 の場合 自動排水のみ	
排水手段	手動排水：手動排水はできません。 自動排水：室内機のタンクに水が一定量貯まった時 電源をOFFにした時
自動排水は上記を満たすと室外機から約2分半ほど自動で排水を行います。 ※V3の場合、自動排水が終わると、室内機のほぼ全ての水を排水しています。ただ、まだ若干水が残っている事がありますので、室内機を動かす時はご注意ください。 ※コンセントを抜くと、自動排水が行えず、内部に水が貯まったままになります。電源を切る時は、操作パネルかリモコンからOFFにし、自動排水が終わった事を確認してからコンセントを抜いてください。	

- 本機を収納する時や、長期間使用しない時は、上記の要領で排水を行った後、「送風」モードで半日程動作させ、本機内部を乾燥させてください。
- ※水が残ったまま放置すると、臭いやカビの原因になります。

お手入れのしかた

日常のお手入れ



注意

●手入れ・掃除をするときは、必ず運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜いた状態で行なってください。

内部でファンが高速回転しておりますので、けがの原因になることがあります。

また、感電のおそれがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜く。電源コードを引っ張って抜くと、電源コードの内部が断線して発熱・発火の原因になります。

●お手入れは、手袋をはめて行う。
けがの原因になります。



エアーフィルターカバーの掃除



注意

●エアーフィルターカバーを外した状態で使用しない。
本機内にほこりを吸込み、故障の原因になります。

●本機の移動は運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜いて行う。
また、引きずって移動しない。
畳や傷の付きやすい床、凹凸のある場所、毛足の長いじゅうたんでは持ち上げて移動してください。けがや床を傷つける原因になります。

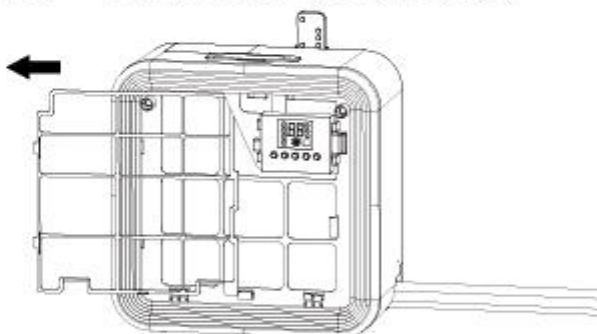
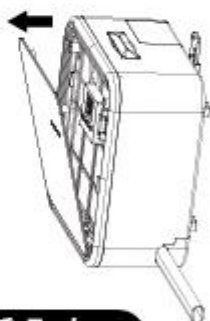


●エアーフィルターカバーにほこりが溜まりますと、空気の通りが悪くなり、冷風効果が低下します。
次の手順で掃除してください。

○フィルターの取り出し方

室内機正面のパネルを外します。

フィルターを矢印方向に引き出します。



本体のお手入れ

お願い

- 40℃以上のお湯は使わないでください。高温のお湯を使うとプラスチックが変形することがあります。
- プラスチックを傷めますので、ベンジン、シンナー、アルコール、みがき粉、塩素や酵素系洗剤などは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

●やわらかい布で乾拭きしてください。

●特に汚れがひどい場合は、ぬるま湯で拭き取ってください。

長期間使わないとき

- CLECOOL V 2 の場合、室内機を動かす前に、必ず手動排水を行ってください。(本説明書-8ページ)
- 晴れた日に半日ほど「送風」運転をして、機器の内部を乾燥させてください。
- 電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
- 掃除をして汚れを落としてください。
- フィルターカバー類を掃除して、取り付けておいてください。
- リモコンから乾電池を取り出してください。
- 湿気の少ない、風通しのよい場所に保管してください。

ご理解していただきたいこと

使用の時は

- 再運転は3分以上待ってください。
落雷などにより運転動作に異常があった場合は、一旦運転を停止して電源プラグを抜き、3分以上過ぎてからコンセントに差し込み、再運転してください。
- 電源を切る時は、排水動作が終わるまでコンセントを抜かないでください。
また、排水が終わっても室内機にはまだ水が残っている事があります。
中の水がこぼれてくることがありますので、室内機を倒したり、傾けたりしないでください。

「冷房」「除湿」運転中

- 室温17℃～35℃の範囲でご使用ください。
CLECOOL Vには適用温度(17-35℃)があります。温度が高すぎる場合、コンプレッサーが待機(過載保護)モードに入り、送風モードとなります。その場合、3分後に自動的にコンプレッサーが動作します。
使用上に関しましては、例えば真夏の室外駐車場に止まっていた車の車内温度は50℃になる可能性もあります。その際は、窓を開けて、車内温度をクールダウンしてから本機を使う事をお勧めします。

経済的で快適にお使いいただくために

- エアーフィルターカバーの掃除はこまめにしてください。
エアーフィルターカバーが目詰まりすると、風量が減り、効果を弱めます。
2週間を目安に掃除しましょう。
- 直射日光を入れない・当てない(冷風 除湿運転時)。
直射日光をカーテンやブラインドで遮りましょう。
- 室内にはできるだけ熱源になるものを置かないでください。

クーラーと消費電力との関係

クーラーは、圧縮機(コンプレッサー)を動作させることと、ファンを回転駆動させることに電力が使用されています。ファンはクーラーが運転している以上、常に回転駆動し続けるため、これを停止させることはできません。
よって、クーラーの省エネを図る場合、コンプレッサーを停止させる時間を長くすることが基本となります。
例えば、自動運転モードを使用すると、室内の温度によって、コンプレッサーの運転時間が自動的に調整されるため、省エネ運転となります。
クーラーは周囲の空気環境によって消費電力が変動するため、月間・日間の消費電力を推測することが困難です。
天気が悪かったり、気温の高低が激しい場合、消費電力も大きく変化します。

冷媒ガスの充填のしかた

室内機と室外機の分離、接続を行うと、少量ですが充填した冷媒ガスが漏れる可能性があります。
この作業を行った後、著しく冷房能力が落ちた場合、冷媒ガスが足りない可能性があります。
その際は、以下の方法で冷媒ガスの充填を行う事ができます。

※冷媒ガスの充填には専門知識や専用工具が必要となります。

エアコン整備等の専門の方に、この説明書をお持ち込みの上、ご依頼ください。

0. 作業を始める前に

冷媒の充填作業を行う時は、風通しの良い場所で、換気をしながら行ってください。

冷媒が手にかかったり、ケガをする恐れがありますので、軍手等で手を保護しながら作業を行ってください。

冷媒の充填は、必ず室内機と室外機を接続した状態で行ってください。

室内機を傾けたり倒したりすると水がこぼれてくる事がありますのでご注意ください。

CLECOOL V 2 の場合、室内機を動かす前に、必ず手動排水を行ってください。(本説明書-8ページ)

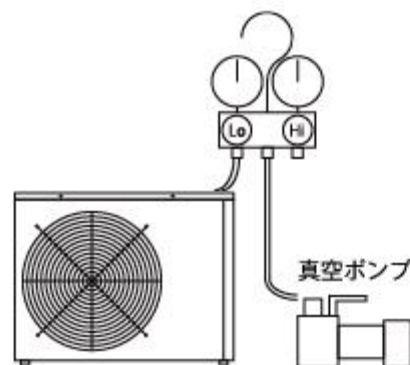
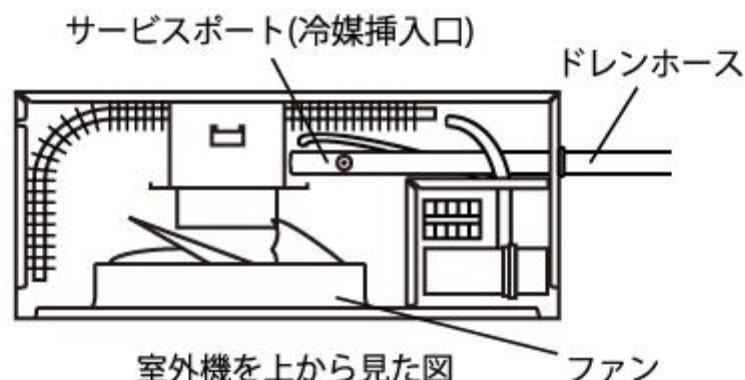
1. 室外機の上蓋を外す

+ドライバーで図のネジを外し、上蓋を取り外します。



2. 冷媒配管を真空引きにする

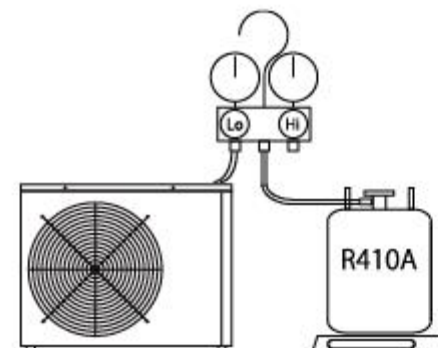
サービスポート(冷媒挿入口)の配管栓を外し、真空ポンプで内部の冷媒を全て抜き取り、真空引きにします。
真空引き後、5～10分程放置し、真空状態が維持されている事を確認してください。



3. 冷媒を充填する

冷媒の規定量は、「R410A」430gです。

冷媒の充填は、必ず気相側では無く液相側で行ってください。



4. 動作確認をする

配管栓を閉め、室外機の上蓋を元に戻した後、本機を動作させて冷風が出てくるか確認してください。

※「除湿」モードで動作させると、設定温度に関わらずコンプレッサーが動作します。

この時、同時に冷風も発生させますので、素早く動作確認できます。

※本機にはコンプレッサー停止後に約3分のクールタイムがあります。

クールタイム中は、本機はコンプレッサーを動作させません。

この場合は、クールタイムが解除されるまで動作させ続けてください。

これは故障ではありません

症状	理由
停止直後に再運転できない。	運転を停止後3分間は、再運転をストップして機械を守り、ヒューズ、ブレーカー切れを防ぐクールタイムが働きます。 (この間は送風で動作し、3分後自動的に元のモードに復帰します)
音がする。	「ジー」→圧縮器(コンプレッサー)の運転音です。
	「シュルシュル」「ゴーゴー」→冷媒の循環する音です。
	「ジジジジジ」→自動排水を行うポンプの音です。
運転音が大きい。	製品を置く設置面が弱かったり、傾斜したりしていませんか。 →振動のない、安定した水平な場所で使用してください。
	エアーフィルターカバーが正しく取り付けられていますか。 →正しく取付けてください。
においがする。	定期的にお手入れと内部乾燥をおこなってください。
	フィルターを掃除してください。
OFFにしても停止しない。	電源をOFFにすると、数分間排水動作を行った後に停止します。
	シャットダウン準備のため数秒間は動作し続ける事があります。

お願い

それでも異常があるときは、運転を停止して電源プラグを抜き、お買い求めの販売店にご連絡の上、修理をお申し付けください。
異常のまま運転を続けると、故障や感電・発熱・火災の原因になります。

エラー表示及び仕様スペック、保証書

エラー表示

エラー	エラー原因	解決方法
E0	排水ホースの詰まり、又は排水ポンプ故障	販売店に修理を依頼してください。
E1	温度センサー	販売店に修理を依頼してください。
E2	基板ショート	販売店に修理を依頼してください。
E6	結露	販売店に修理を依頼してください。
E7	オーバーヒート	フィルターの掃除をしてください。 それでもエラーが頻発する場合は販売店に修理を依頼してください。

仕様

型式	CLECOOL V2	CLECOOL V3
定格電圧 定格周波数	100 V, 50/60Hz	
定格消費電力	560 W	
冷房能力	1250 W	
除湿能力(27°C RH60%)	50Hz時 20.5 L/日	60Hz時 26.0 L/日
冷媒	R140a 430g	
本体寸法	室内機 408(W) x 400(D) x 208(H)	
	室外機 514(W) x 400(D) x 208(H)	
本体重量	25.0 kg	26.0 kg
ドレンホース	2m	3m ジョイント式

保証規定

- 取扱説明書、本体ラベル等の注意に従った使用状態で故障した場合のみ無料修理対象となります。
 - 保証期間内でも、次の場合は有料になります。
 - 本書の提示がない場合、あるいはお買い上げ年月日、お客様名、販売店の記入が無い場合。
 - 本商品を本来の用途以外に使用された場合の故障や損傷。
 - 本書は日本国内においてのみ有効です。
- この説明書に明記された内容を守らなかった場合に起きた事故、製品の破損、接続機器の破損の責任は一切応じられません。

保証書

品名	楽座クーラー	お買い上げ日	年 月 日
型式	CLECOOL V	保証期間	お買い上げ日より1年
お客様名			
販売店（店名・住所・電話番号）			

* お買い上げ日、販売店の記入がない場合は無効となります。